

里の暮らしと ツシマヤマネコ



草の刈取時期の千俵蒔山（年代不明）

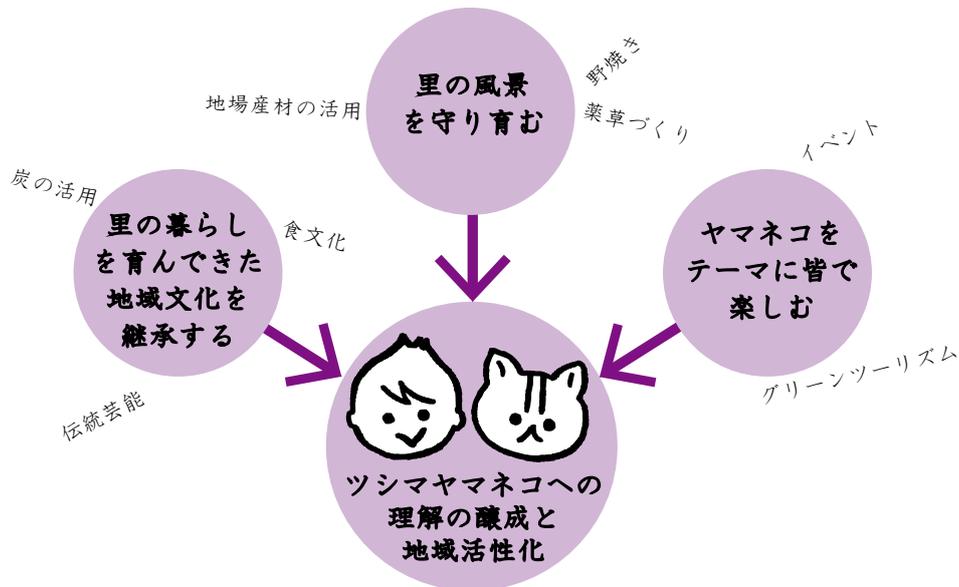


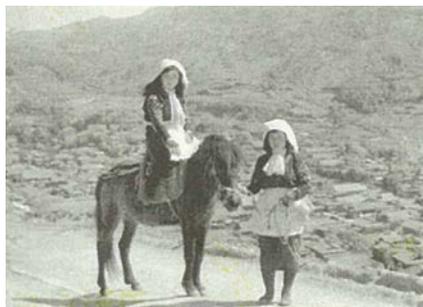
千俵蒔山へピクニック（1970年頃）

（出典：千俵蒔山草原再生プロジェクト、編集・発行：佐護区）

薪炭林や木庭作は、人の生活に欠かせない暮らしの技術であるとともに、ツシマヤマネコにとっても棲みやすい環境でした。これらをつくって暮らしが営まれていた時代、対馬各地で年中行事、食文化、伝統芸能など、様々な地域文化が育まれていました。そして、今なお引き継がれています。しかしながら、その地域文化も受け継ぐ人が少なくなり、失われてしまう可能性があります。人の暮らしを豊かにし、ツシマヤマネコの生息環境を育ててきた地域文化を今後も継承していくことが必要です。

そこで、ツシマヤマネコを取り巻く地域の資源や魅力をより多くの人と共有し、地域文化を取り巻く環境とツシマヤマネコの関わり、そしてツシマヤマネコの保護や生息環境の保全に対する理解の醸成を進めると共に、島内外の人々の交流を活発化し、地域をより活性化させていく取り組みが始まっています。





対州馬と豆酸の風景（1955年頃）
（出典：豆酸ドライブそうつくマップ、発行：対馬市観光交流課）



対馬の生活とともにある鶏の文化
（出典：愛してニワトリ愛してヤマネコ、発行：対馬野生生物保護センター）



いりやきで客人をもてなす（1966年）
（出典：愛してニワトリ愛してヤマネコ、発行：対馬野生生物保護センター）

ツシマヤマネコと共生する暮らしのヒント

地域文化を継承・発展させる

かつてのツシマヤマネコと共生していた里の暮らしの営みで培われてきた食文化、伝統芸能、美しい風景などの様々な地域文化を継承・発展させ、次世代に伝えていく必要があります。

- ①食文化を広げる （内山区住民） P35
 - ②芸能・風習・風景を再生・継承する （舟志区・佐護区・上対馬町太鼓保存会对馬愛鼓連） P35
 - ③里の知恵・技を活かす・広げる （舟志区住民・内山盆地の里やまねこ会） P36
- Column11** 内山盆地の里やまねこ会とは P38

ヤマネコをテーマに皆で楽しむ

ツシマヤマネコのことや、その生息環境を支えている地域社会について、島内外のより多くの人々が興味を持ち、ツシマヤマネコと共生する地域社会づくりに協力する仲間を増やしていくため、皆で学び、楽しむ機会を増やしていく必要があります。

- ④グリーンツーリズム （内山区グリーンツーリズム研究会） P39
 - ⑤イベントの開催 （舟志区住民・内山区住民） P40
- Column12** 対馬とんちゃん部隊とは P40

Column10

ツシマヤマネコと人の暮らし

2003年に発行された「ツシマヤマネコ 対馬の森でー野生との共存をめざして」（ツシマヤマネコBOOK編集委員会）によると、かつては森林の中の木庭作地などで農作業をしている際にツシマヤマネコをよく見かけた、という高齢者が多く、中には、ツシマヤマネコの襟巻きが残っている家や、食べていたという人もいるなど、ツシマヤマネコは衣類や貴重なタンパク源などとしても利用されており、人の暮らしと密接に関わりながら生息していたことが記されています。



地域文化を継承・発展させる

①食文化を広げる（内山区住民）

内山区には、漬け物をはじめ、いりやき、せんだんごなど、各家庭の食文化が今なお伝わっています。それらの食文化をイベントや農家民泊などを通じて地域やより多くの人に広げる取り組みが行われています。

●漬け物づくり

内山区の野菜は対馬の中でも特においしいと評判で、その野菜を使って各家庭で漬け物がつくられています。それぞれのおらが家の漬け物を持ち寄り、2011年の内山盆地まつりなどで販売しました。



漬け物レシピカード



内山盆地まつりでの漬け物販売



農家民泊の食事風景

●農家民泊

内山区には、取れたての新鮮野菜を中心に、対馬の海の幸、山の幸を活かした食事を提供する農家民泊があり、豊かな食文化を多くの人に伝えています。

②芸能・風習・風景を再生・継承する（舟志区・佐護区・上対馬町太鼓保存会対馬愛鼓連）

里の暮らしを支えてきた芸能や風習、風景などを次世代に伝えるため、再生・継承する取り組みが行われています。

●はごんこつ（舟志区住民）

「はごんこつ」は1985年頃まで舟志区で続いていた女性たちが自分たちで作った料理を持ち寄って楽しむ地区行事ですが、婦人会により久々に行われました。



婦人会によって行われたはごんこつ



●対馬愛鼓連の継承（上対馬町太鼓保存会対馬愛鼓連）

上対馬町太鼓保存会対馬愛鼓連では、先代から受け継がれた技能を保存・継承していく舟志愛鼓連和太鼓芸能保存部、対馬市のPRを考えた曲作りなどを行う響魂創作太鼓部、子供たちの健全育成と和太鼓の普及や発展などを目的にしたかっちえる子供太鼓芸能部をつくり、愛鼓連ならではの太鼓道を継承しています。



子どもたちによる太鼓演奏

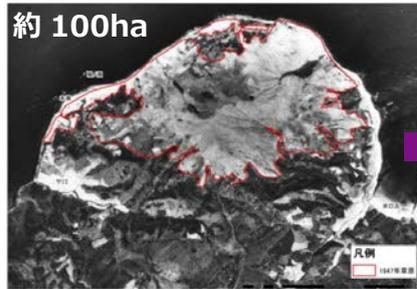
せんびょうまきやま

●千俵蒔山の草原再生（佐護区）

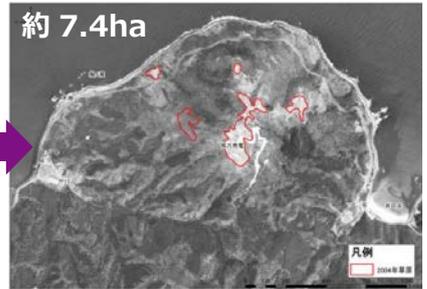
千俵蒔山は、かつては農家が牛馬の飼料を採草するため、野焼きが行われていましたが、この行事も近年では途絶えていました。集落座談会をきっかけに、2007年に約40年ぶりにその美しい景観を次世代に伝えるため、住民、消防団、市職員など約100名が参加して、復活させました。



野焼きの風景



約100ha
1947年時の草原



約7.4ha
2004年時の草原

③里の知恵・技を活かす・広げる（舟志区住民・内山盆地の里やまねこ会）

自然の恵みを活かした先人達の知恵や技を地域の皆で共有・活用し、それをより多くの人に広げる取り組みが行われています。

●薬草探しと活用

（内山盆地の里やまねこ会）

対馬には宗家が残してきた薬草の古文書（朝鮮から学んだもの）が残されており、薬草に関心のある人が多いことから、地域に見られる薬草や有用植物をフィールドで探し、薬用植物リストやマップを作成しました。

薬草・有用植物イメージ

<部位> 葉、茎 <方法> 乾燥、煎服 <効用> 滋養、強壯 動脈硬化、 ねんざ 肩こり など	 アカマツ	<部位> 葉、茎 <方法> 乾燥、煎服 <効用> 滋養、強壯 不眠症 むくみ など	 ヤマグワ	<部位> 葉、茎、樹皮 <方法> 乾燥、煎服 <効用> 胃腸、湿疹 腫れ物 など	 アカメガシラ
<部位> 全草 <方法> 乾燥、煎服、 塗布 <効用> 利尿、いぼ 虫さされ	 スベリヒコ	<部位> 地上部 <方法> 乾燥、煎服 生、塗布 <効用> 多くの薬効	 ドクダミ	<部位> 虫こぶ、果実 <方法> ？ <効用> 下痢、 癩	
<部位> 全草 <方法> 乾燥、煎服 <効用> 虚弱体質 糖尿病 かぶれ	 カキドオシ	<部位> 果実 <方法> 生で食べる <効用> 疲労回復 喘息 おてき	 フユイチゴ		

みんなで探した薬草・有用植物の図鑑イメージ

●木工細工・竹細工（舟志区住民）

舟志区では豊かな森林資源があり、竹細工や木工細工も盛んです。昔から作られてきたかごづくりなどができる人も多く、舟志の森自然学校などの体験プログラムとしても活用されています。



竹細工

●炭・灰の活用（内山盆地の里やまねこ会及び島おこし協働隊員）

内山区は対馬にありながら海から遠く離れており、かつて人々は炭焼きなどで生計をたて、内山の炭は、巖原（城下町）で消費されてきた伝統があります。そのため、内山区周辺には、椿をはじめとした広葉樹の森のある里山景観が広がっています。その地域特性を活かして炭づくりを行い、加工品として脱臭炭や草木染めづくりを進めています。

脱臭炭の開発・販売

炭を生産し、ツシマヤマネコの野生復帰にともなう生息環境整備に貢献する商品として付加価値をつけて販売することで、地域経済を活性化できるよう、現在内山区で生産されている黒炭の特性をふまえて脱臭炭を開発しています。

開発においては、ラッピングやラベルの作成、ツシマヤマネコの生息環境と炭焼きについての紹介文の検討など、袋詰め作業までを皆で試行錯誤して完成させました。それを東京のアウトドアショップ、ツシマヤマネコの飼育動物園でのイベント等を通じて試験販売し、2014年12月までの3年間で脱臭炭を合計233個売り上げました。



炭の検討会の様子



パッケージデザイン検討の様子



炭の袋詰め作業



パタゴニア渋谷店での試験販売
(2012)



炭の雰囲気を活かした
パッケージデザイン
(画：女子美術大学 桐野江司)



名古屋市東山動物園でのイベント販売
(2012)

椿灰と草木染め

椿灰は赤や黄色の色を定着させる媒染剤として古くから使われています。そのため、染色業者や灰生産業者へのヒアリング等、椿灰の市場調査を実施し、今後の活用・販売の可能性について検討しました。

また、この椿灰を使った草木染めによる地域ブランドの開発を進めています。



草木染め開発の様子

Column11

内山盆地の里やまねこ会とは

内山区をはじめ、舟志区、佐護区では、ツシマヤマネコと共生する地域社会づくりを進めるモデル地区として、環境省主催による集落座談会を開催してきました。これは、ツシマヤマネコをはじめとする野生生物との共生の意義や地域社会づくりの目的を地域住民と共有し、地域資源を活かした住民主体の取り組みを実践することを目的としています。

内山区は、龍良山、矢立山、舞石ノ壇山などの山々に囲まれた、対馬では珍しいすり鉢状の盆地に位置しています。海を持たない集落のため、内山区では炭焼きや畑づくりなどの里山の暮らしが長く維持されてきました。

このような中、2007年、下島では23年ぶりにツシマヤマネコの生息が内山で確認されました。2009年にツシマヤマネコ野生順化施設（現ツシマヤマネコ野生順化ステーション）が内山に建設されることとなり、集落座談会の取り組みを開始しました。

内山区の集落座談会では、地域資源としておいしい野菜や漬け物、炭づくりなどが挙げられ、これらを活かす活動を展開するため、勉強会や意見交換を重ねてきました。検討の中から、2011年に漬け物のイベント販売を行い、2012年には脱臭炭の開発・試験販売、薬草探しなどの活動が行われ、同じく2012年9月に、「内山盆地の里やまねこ会」を設立しました。



集落座談会の主な流れ



最初の集落座談会



集落座談会で地域資源を発表



他のモデル地区との情報交換



皆で探した地域資源（農業体験）



皆で探した地域資源（自然体験）



皆で探した地域資源（木武古婆神社）

ヤマネコをテーマに皆で楽しむ

④グリーンツーリズム（内山区グリーンツーリズム研究会）

対州馬の乗馬体験や炭焼き体験、農業体験などの体験プログラム、豊かな自然を感じる鮎もどし自然公園や展望台からの自然景観、木武古婆神社や対馬の歴史に欠かせない宗家に関するお墓や歴史資源、漬け物やいりやき、イモ餅などの食文化、お客様を受け入れる民泊農家など、内山区の地域資源を活用し、グリーンツーリズムの取り組みを進めています。



木武古婆神社の裏山



対州馬



炭焼き体験



鮎もどし自然公園



無人販売所



無人販売所の品



ヤマイモが入ったいりやき



いりやきの仕込み風景



せんだんごづくり



農家民泊での交流



農家民泊の食事風景



森のミニ博物館（現在閉館中）

⑤ イベントの開催（舟志区住民・内山区住民）

地区内及び島内外の人たちに地域の魅力をより知ってもらい、ツシマヤマネコと共生する地域社会づくりを目指す仲間を増やすため、地区の魅力を活かしたイベントを開催しています。

● やまねこ音楽祭(舟志区住民)

ツシマヤマネコへの関心を高めるため、また施設利用のきっかけとなるよう、ジャズや和太鼓などの音楽祭を開催してきました。



多くの住民が集まる音楽祭



「つばき」と「ろくべえ」の和太鼓演奏

● 舟志もみじ祭り(舟志区住民)

皆で紅葉とシカ肉を楽しむのが定番の、舟志区ならではのイベントでした。現在は地元の(一社)対馬観光物産協会などが中心となり、上対馬もみじイベントとして行っています。



舟志区民が整備してきた紅葉街道



イベント会場の様子

● 内山盆地まつり(内山区住民)

2011年度で10年目を迎え、2001年から2011年まで開催された「内山盆地まつり」。農産物・炭・花木苗の販売、対州馬の乗馬体験、郷土料理や漬け物販売などを実施しました。



祭りの様子



もちまき

Column12

対馬とんちゃん部隊とは

秘伝の甘辛ダレに豚の肩ロースを漬けこんだ焼き肉「上対馬とんちゃん」。この上対馬のソウルフードをご当地グルメとして地域活性化の起爆剤にしようと、2010年に有志により結成され、各種イベントにおいて対馬の活性化のためPR活動を行っています。

2010年「第2回九州ご当地グルメコンテスト」では初出展で初優勝を果たすほか、「第7回B-1グランプリ」では準優勝に当たる「シルバーグランプリ」を獲得しています。



ご当地イベントでの出展
(提供：対馬とんちゃん部隊)